

消防大学校における教育訓練等に関する検討会（第2回） 案

議 事 概 要

1 日 時 平成27年12月15日（水） 14:00～16:00

2 場 所 日本消防会館 第一会議室

3 出席者（敬称略）

（座 長）木幡 浩

（副座長）山田 常圭

（委 員）50音順

秋山 昭二、石川 義彦、大石 誠、奥見 啓五、澁澤 陽平、名畑 徹、

山越 伸子

（オブザーバー）川島 司、新村 満弘、中井 幹晴

4 議事次第

（1）開会

（2）議題

ア 主な検討事項について

イ その他

（5）閉会

5 議事概要

事務局から、議事・配布資料に関する説明があった後、各委員から資料についての質問、論点や検討課題などについて議論した。各委員の主な意見は以下とおり。

【委 員】資料の2-2について、「救助科で民間の研修内容の情報収集を行い、消防庁で推奨しているものと合致しているか確認し、学生へアドバイスをする必要がある」とは、具体的にどういう意味なのか。

【事務局】民間基準の技術的な救助手法等を個人的に習得している学生や組織的に導入していることがある。入校した学生が、その技術について教官に質問することがあるが、教官は全ての技術等を把握していない。大学校としては、本庁、あるいは他の関係団体と調整しながら、そのような技術のあり方というか、そういうことについて認識をすべきかと。

【委 員】資料2で新任消防長の入校者が減少傾向にあるが、対象者が減っているのか、あるいは、時期的に入校が困難で本当はニーズがあるのかのどちらか。

【事務局】新任消防長・学校長科の対象者は、一般行政職から消防本部の長になる方であるが、生え抜きの方が多くなってきているため、減少傾向にある。

【委 員】生え抜きが多くなってきただけではなく、広域化の影響もあるかもしれない。

【委 員】資料3の女性の研修機会の拡大について、救急や予防は、女性吏員の活躍の場にもなっていて、幹部職員も育ってきているが、警防・救助は未だに男性吏員の現場である。そんな状況で、あえて女性枠を作る必要があるのか。

【委員】 全国の状況は様々であるが、比較すると大都市の消防本部の方が、女性がある程度いるため、予防や救急以外の要素に少しずつ進出しているというのが平均的な姿となっている。その中で幾つかの消防本部では警防の中でかなり活躍する人が出てきている。ただし、その世代はまだ若いので、消防大学校にターゲットを絞ったときには、警防（の入校）は少ないかもしれない。ただし、女性の活躍を推進する点では、救急とか、予防とか、今まである程度活躍している分野じゃないところで、後押しをする要素を作っておきたい。

【委員】 平成28年度の消防大学校の教育訓練計画は、緊急消防援助隊の隊長コース等を除けば、全てに女性優先枠を5%設定した。女性に関しては積極的に研修機会を拡大していくべきという考え方のもとに、一定の目標を設定して促進していくと。消防大学校でもこの10年間で49人に入校している。ほとんどが救急と予防であるが、警防もいた。

【事務局】 警防科には消防本部から派遣されている学校教官が1名入校している。

【委員】 女性専用コースの対象が消防司令補と消防士長の理由は何か。

【事務局】 この層の方であれば、十分に対応できること。この階層より上の方になると、対象が少ないこと。今回はキャリアパスとかロールモデルを修得することを前提に行うため、消防司令補、消防士長の方を対象にした。一方で、このコースに該当しない方は、幹部科等の学科の優先枠を活用していただきたい。

【委員】 人選的には、この2つの階級が一番多いが、1人選ぶということになると非常に難しい。その人を選んだ理由として、今後幹部になっていくからとは言いにくい。一番上の役職で、課長補佐が2名いるが、その者を差し置いて、司令補とか士長の者が選ばれたとなると、選ばれた人も躊躇すると思う。できれば、縛りがない方が柔軟な対応ができると思う。

【委員】 今回は女性の活躍促進という大きな方針の中で、その1つの切り込み隊長的な役割としてこの階級の中の人を選んでもらえればいい。仮にその上の階級の方は、できれば幹部科等に来てもらいたい。女性専用のコースは、階級と年齢を広げすぎると階級制の社会の中で、非常にまとまりを欠くというか、やりづらい面があるかなということで、こういった設定をした。やっていく中で、改善すべき事項があれば、改善していきたい。

【委員】 女性枠の関係で、救助科の幹部に至るまでの経過を踏むことがちょっと難しいのではないかと。ただ、警防科については、消防隊活動については、ある程度、隊の運用等も含めて、幅広く女性吏員でも隊長クラスまで持っていけないかということで現在検討しているので、警防科の方は、将来的に幹部職員を消防大学校へ出せるかなと。

【委員】 資料3の消防学校との連携について、消防大学校と消防学校の役割分担は明確になっているのかなと多少疑問に思っているところ。消防大学校に期待するのは、都道府県・政令市レベルだと、分からないような全国的な事例、先進的な事例であるとか、消防大学校に来ることによって新たな知識が習得できることとか。差別化というか、特化というか、そういったことができればいいのかなと感じている。例えば基本的なカリキュラムは、映像に撮って、それを流すとか、都道府県等にIDとパスワードを渡して、自主的に勉強できるやり方もあるのかなと。そ

ういった役割分担等々をしていくと、限られた時間の中で消防大学校においてより高度な教育ができて、それが全国的な消防のレベルアップにつながると思う。

【委員】教官の意見にあるように、現実には、学生からの意見で「レベルが高過ぎた」とか、「分からなかった」という話が結構ある。そういう声が途中であると、どうしても目線を落とさざるを得なくなってくる。そこは入校要件の厳格化ということだけど、やっぱり基本的なことは消防学校でやっていただいて、消防大学校は、消防学校ができないようなものを提供するの筋じゃないかと。消防学校の教育課程の基準はしっかりしてるので、あとは、実際にそれが教育として定着しているのかどうかとか、消防大学校へ入校している人間がそのような役割分担のもとで適した人間なのかどうかというのが多分問題になっていると思う。

【委員】消防団長科の充実について、課題研究、事例研究的なものを入れてはどうか。日本消防協会も、団長を対象として研修を行っており、この中で課題研究を取り入れている。4時間ぐらいしか時間がとれないけれども、もっと時間を延長してほしいとか、そういう要望が強い。

例えば課題のテーマで選択肢を示して、テーマ別に班編成するような形など、そういうのも良いと思う。

【委員】やはり具体的な事例というものに基づいて教育をするので、その辺も取り組まないといけないと思う。あとは、日本消防協会と調整の上、差別化というか、消防大学校には消防大学校の意味のあるものにしないといけない。

【委員】緊急消防援助隊の指揮隊長コースのについて、28年の計画を見ると、指揮隊長コースは緊急消防援助隊の指揮支援部隊長等を対象に行うということになっている。指揮支援部隊長のやるべきことと、各調整隊長がやるべきこと、活躍する場所など、役職に応じて内容が結構違ってくると思う。コースを強化するのは賛成する一方、どこにターゲットを当てていくのかということを確認しておいた方が良い。

【事務局】指揮シミュレーション訓練については、自身の役職に限らず、各役職の役割を分かっていたくような訓練をしながら1つの形としてまとめて実施。

【委員】指揮隊長コースは、案1（コースの充実化）と案2（学科へ移行）が出ているが、どちらがよいか。

【委員】案1の方がなじむ気がする。

【委員】緊急消防隊教育科となっている限りは、今の実務講習という形でいいかなと思う。

【委員】消防学校との連携について、例えば入校者の厳格化、資格の厳格化みたいな話があったが、消防学校を1つのキャリアパスとして、そこを経ないと上に行けないとかいう縛りは実際にあるのか。

【事務局】ないと思う。

【委員】消防学校でやっている教育内容がベースにあって、その上でさらに高度教育という専科については、そういうキャリアパスの制度も将来的には取り入れていい

かなという気がする。

- 【委員】 消防学校でも実際の業務には携わっていない者が入ってくるのは一緒である。結局、訓練時に如実にその差が出てきてしまう。消防学校の専科教育を経験したら大丈夫かという、決してそうではない。本来は、送り出す側がきちんと人を選択していかないといけない問題だと思う。
- 【委員】 本来来るべきでない人が来たら、場合によっては、落とすぞというぐらいの、運営側が厳しさを持たないと。大分県サイドが、本当についてこない人を送る方が悪いぐらいの感覚の運用をしないとイケないのかなと。
- 【事務局】 効果測定を厳しめにやって、簡単に通させないよう、歯ごたえがあっても良いかもしれない。日数に応じた厳しさをハードルとして設定すべきと思う。
- 【委員】 緊援隊の充実強化の中に大規模イベント開催を控えた対応について、ここでは大規模イベント開催を控えた対応として、何か起きたときの対応力を強化しておくということだと思うが、大規模イベントに関するプランニングのことも研修、教育する機会があった方が良いかもしれない。サミットなり、色んな大きなイベントを経験した消防本部だけが特別の消防警戒体制のプランニングが分かっている状況で、これからは、色んな地域でイベントが行われてくるので、プランニングで、特別の消防の警戒を一定期間つくって、通常の消防力とは別に運用しなきゃいけないようなことも考えていただくような話をどこかで学習できる機会も考えたらどうかと。
- 【委員】 おっしゃるように、国際的なイベントとかいうのは、日本全国どこでもある話で、そのイベントをするときにどういう準備をすればいいのかというのをまずやらないといけない。例えばNBCコースは、NBCで特化しているけれど、その他の部分に関しては、大規模イベントに対する事前の総合的な対策というのものは是非取り入れたいなと思っている。
- 【事務局】 直前に集中的にコースを開催するというのも含めて、内部で色々とアイデアは出ているので、警戒体制については、実際に経験した方とかに直接話を聞いて、事例を活用して、そのノウハウを伝えていくというのは十分必要だと思う。
- 【委員】 警防だけじゃなくて、予防も結構な作業があるので、それをあわせて全体で何かノウハウを皆さんで共有していく仕組みがあるといいなと思う。
- 【委員】 大規模イベントに対する対応マニュアルみたいなのをもちろん持っているところがあつたら、それでいいと思うが、多分今は個別の職員がマニュアルがない中、一生懸命チェックしているのが実態じゃないかなと思う。例えばマニュアルのひな型をつくって教育していくことが必要じゃないかなと思う。
- 【事務局】 過去の教訓の扱い方では、本庁との調整の中で、例えば法令改正の原因になった地域の方に来ていただいて、現状の生の声を講義してもらいながら。以前は、そういう機会はなかったが、そういう科目設定のノウハウも色々な学科に応用させるために、どういうことが対象になるのかということもよく本庁の各課と連携していきたいと思う。
- 【委員】 やはり、情報の共有化されていないと思う。先般、今後の大規模イベントに関

するミーティングがあったが、その時に色んな話が出てきて、初めてわかったことがあった。これは是非やっていただきたい。

【委員】 消防学校との連携について、(消防本部の総合的能力を高めるためには、行政的知識や～) は、位置的に落ち着きが悪いかと。消防大学校と消防学校との関係の中では異質だと思う。

【委員】 位置づけが悪いかもしれない。この辺の問題意識を言うと、消防でも指揮能力とか、そういうのは極めて大事であるが、やはり消防の力を上げるには、消防全体の兵站というか、マネジメントしていかないと全体の力は上がっていかないと思っている。消防の幹部といった場合に、署長と本部・本庁の幹部って全然色彩が違うと思う。消防大学校の教育はどちらかというと、本部の幹部はほとんど想定していないのが実態と思うが、本部の幹部をやるような人材を育てるのも必要だと思う。

以上